学校番号	３０１

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	新詳地理Ｂ　（帝国書院）　新詳高等地図　（帝国書院）						
副教材等	新編　地理資料 2020（とうほう）　　データブックオブザワールド 2020（二宮書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

今日、我々が生活する世界はたくさんの国や、たくさんの人々との関係で成り立っています。この世界がどうなっているのか、これまでの歴史、現在の状況、これからの予測など、世界のかたちを考えてゆきます。・現代の世界を「地図」を基にして考えます。・データを使いながら、データの読み方、データの扱い方を身に付け、そこから世界を見渡します。

2　学習の到達目標

・まず、現代の社会や暮らしのようすを知ろうとすることが重要です
・次になぜそうなったのかを説明できるようになることが重要です
・そしてそれを地図化（統計図化）してみましょう。また地図化したものを見てこれまでの社会のあり方や未来を考えてみましょう。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：資料活用の技能	d：知識・理解
観点の趣旨	・地理を選択した人ばかりですから、あえて「地理への関心」ということにはふれませんが、地図に関心を持ってもらうために、地図帳の見方や地図を作る作業を行います。	・自然地理では地形や気候の成因と人々の暮らし、人文地理では人々の活動とその要因を考えます ・地誌では国や地域の現状と日本との関係を理解します	・データを読み解く力を磨きます。データから現状や将来を類推する力、地図から社会を見る方法を身につけましょう。	・基本的な地名を覚えましょう。覚えるだけでなくその場所を簡単に説明できるかが重要です。 ・基本的な用語も覚えるだけでなく、説明できることが重要です。
評価方法	・テーマを決めた地図の作成（ワーク）	定期考査	定期考査 ・地図をベースにしてのレポート。・データを利用した統計図や統計地図の作成（ワーク）	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第Ⅰ部1章	地図の発達 地図の種類とその利用 地図の活用と地域調査	○	 ○ ○	 ○	 ○	a：様々な地図に興味をもつ b：様々な地図の使い分けができる c：地理情報を地図化できる d：時差計算、図法の意味がわかる	作業、 ワークシート

	2章	地図の活用 身近な地域の調査	○	○	○		a:身近な地域に興味がある b:地形図から地域の様子や変化を読み取れる c:地域情報を図化できる	レポート
	第Ⅱ部1章	自然環境		○	○	○	b:地形や気候と人々の生活の様子を関連づけて説明できる c:雨温図や地形図から自然のようすを読み取れる d:基本的な地形、気候用語を覚え、その内容を説明できる	定期考査 ワークシート
	第Ⅱ部3章	世界の人口と人口問題 村落と都市 都市居住問題	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:人口問題や都市問題に興味を持てたか b:各国の都市、人口問題の様子を理解しその要因を説明できるか c:データを図化できるか。図から都市や人口の様子が読み取れるか d:人口や都市の基本用語が説明できるか	定期考査 レポート
2	第Ⅱ部2章	世界の農林水産業 世界のエネルギー資源とエネルギー問題 世界の工業 第三次産業と交通・貿易	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:生活の基礎である、産業分野に興味を持てたか b:産業分野での各国の様子、その要因を理解できるか c:数値化されたデータから、産業の実態を読み解けるか d:基本用語が説明できるか	定期考査
	第Ⅱ部4章	世界の衣食住 民族と宗教 民族問題・領土問題	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	a:世界の文化に興味があるか b:民族問題や領土問題の要因を理解し、説明できるか d:民族・領土問題に関わる基本地名や用語を説明できるか	定期考査 ワークシート
2~3	第Ⅲ部	現代世界の諸地域	○	○	○	○	a:訪問してみたい国や地域があるか b:地域を自然環境、社会環境などの側面から理解できるか c:地域の地図を描けるか d.基本地名、基本用語を覚えているか:	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。